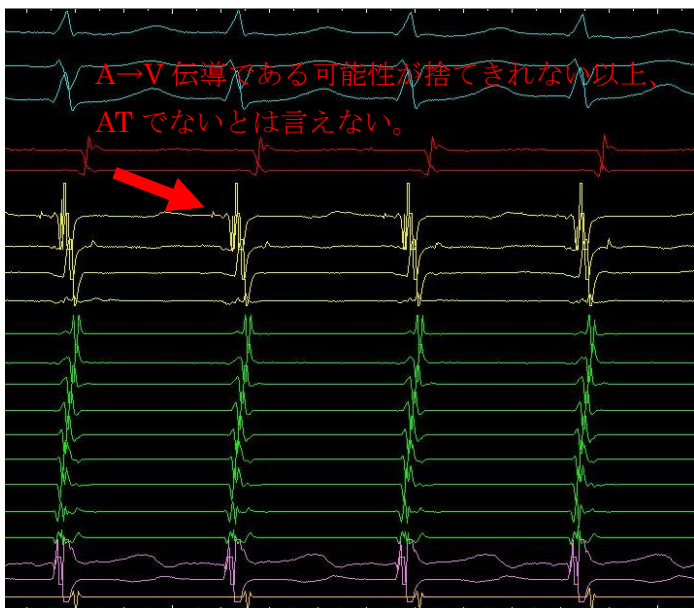


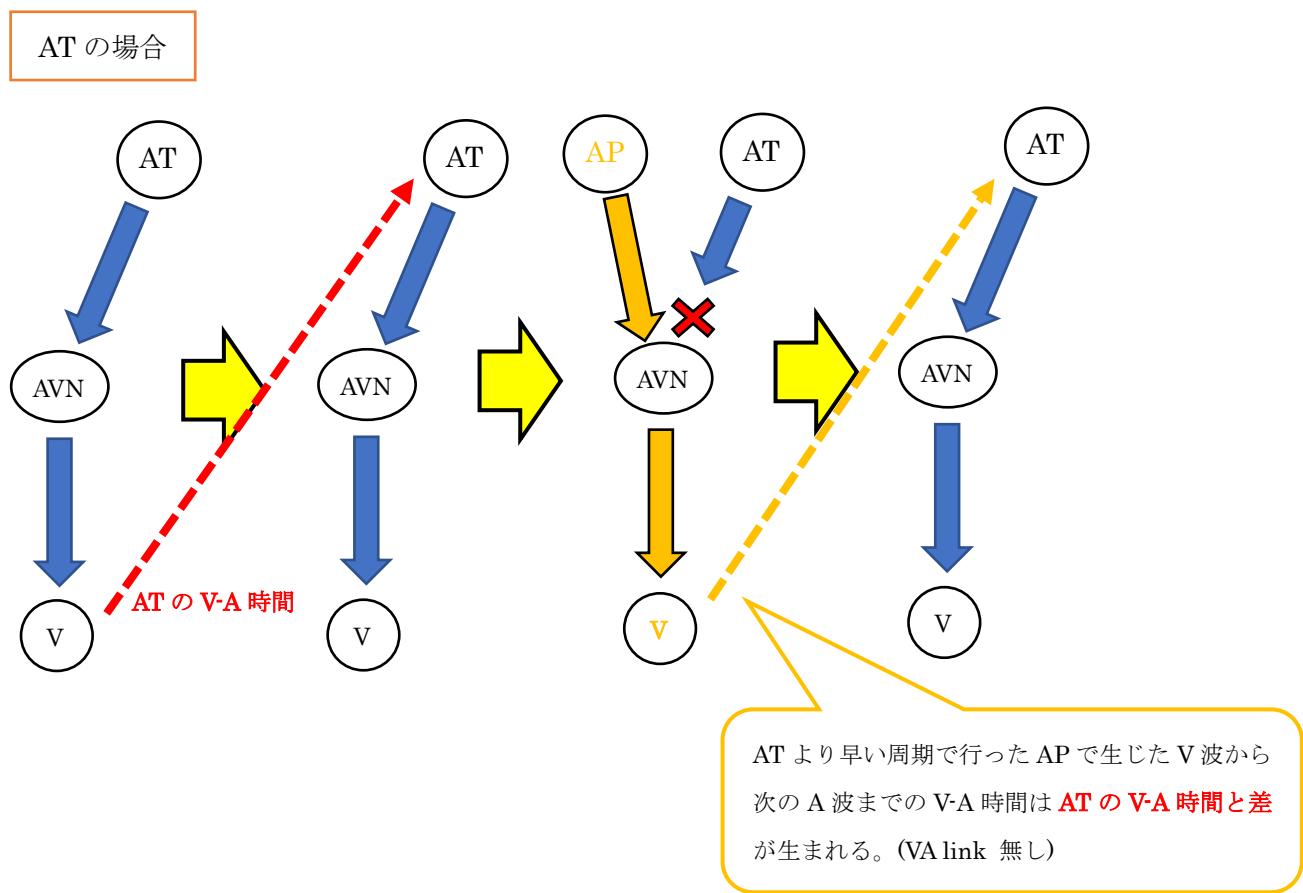
# 【A Scan による AT と AVNRT の鑑別】 (丸山法)

別名：インディアンペーシング

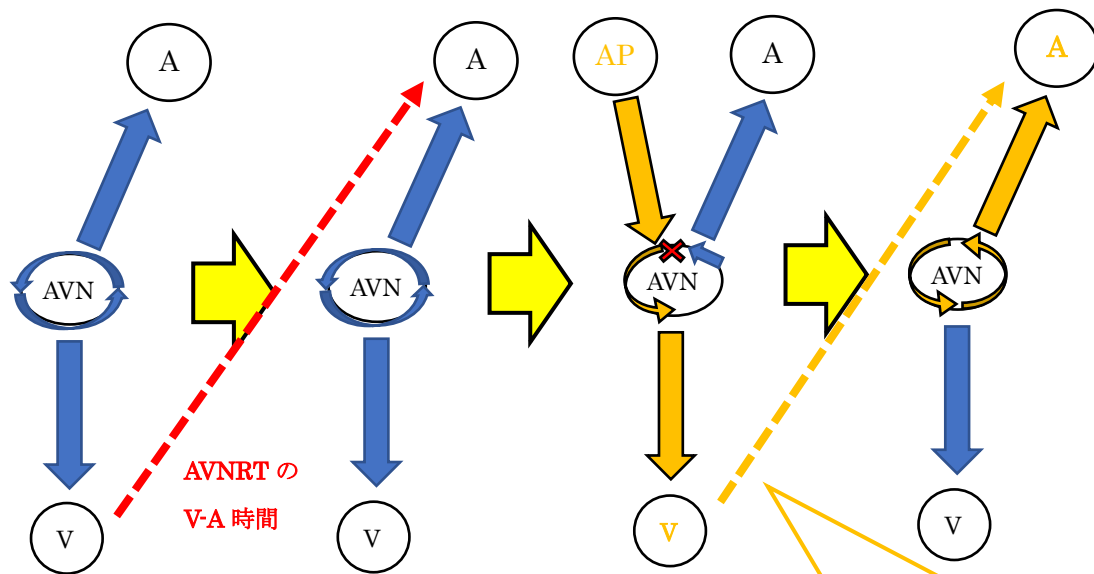
PSVT において HRA・His・CS・RV での電位時相が全て同じとき、AVNRT を疑う。  
 しかしながら、AT での V tachy である可能性も捨てきれない。



そこで AScan を行う。



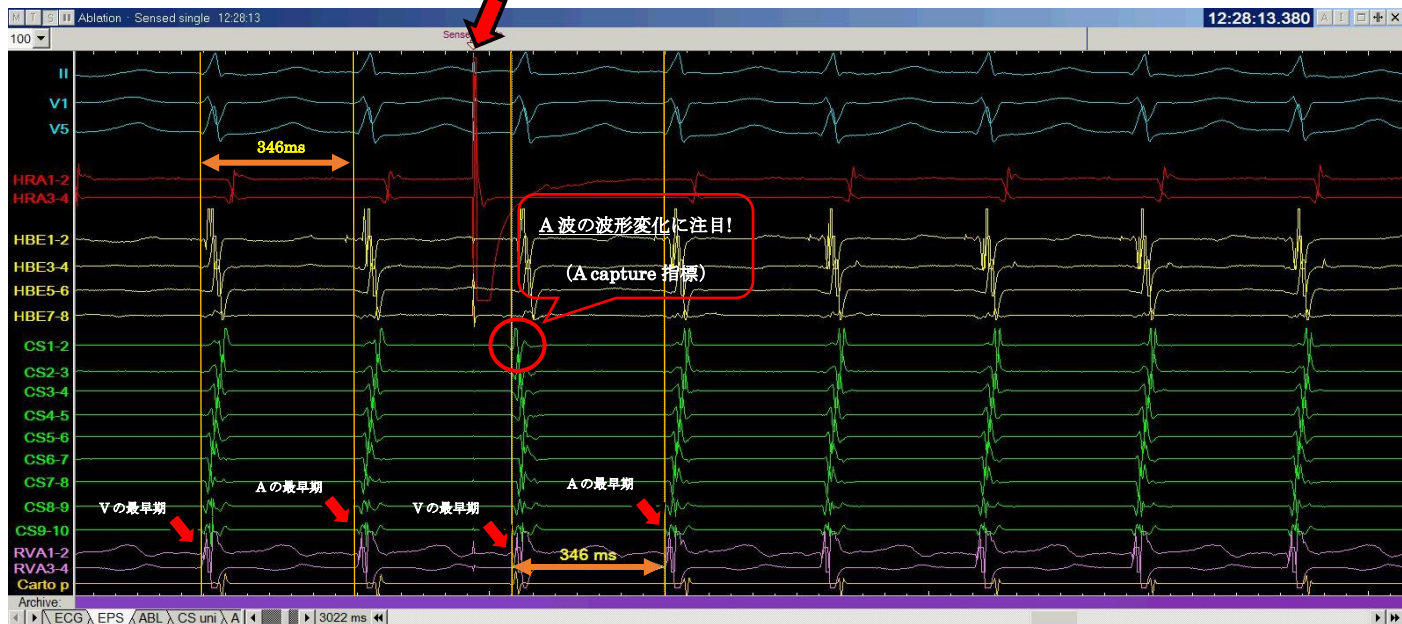
AVNRT の場合



AVNRT より早い周期で行った AP で生じた V 波からの次の A 波は AVNRT と同回路を伝導する。よって V-A 時間は **AVNRT と同じ**である。(VA link 有)

<HRA1-2 による A Scan>

HRAp 1-2



<AScan の Point>

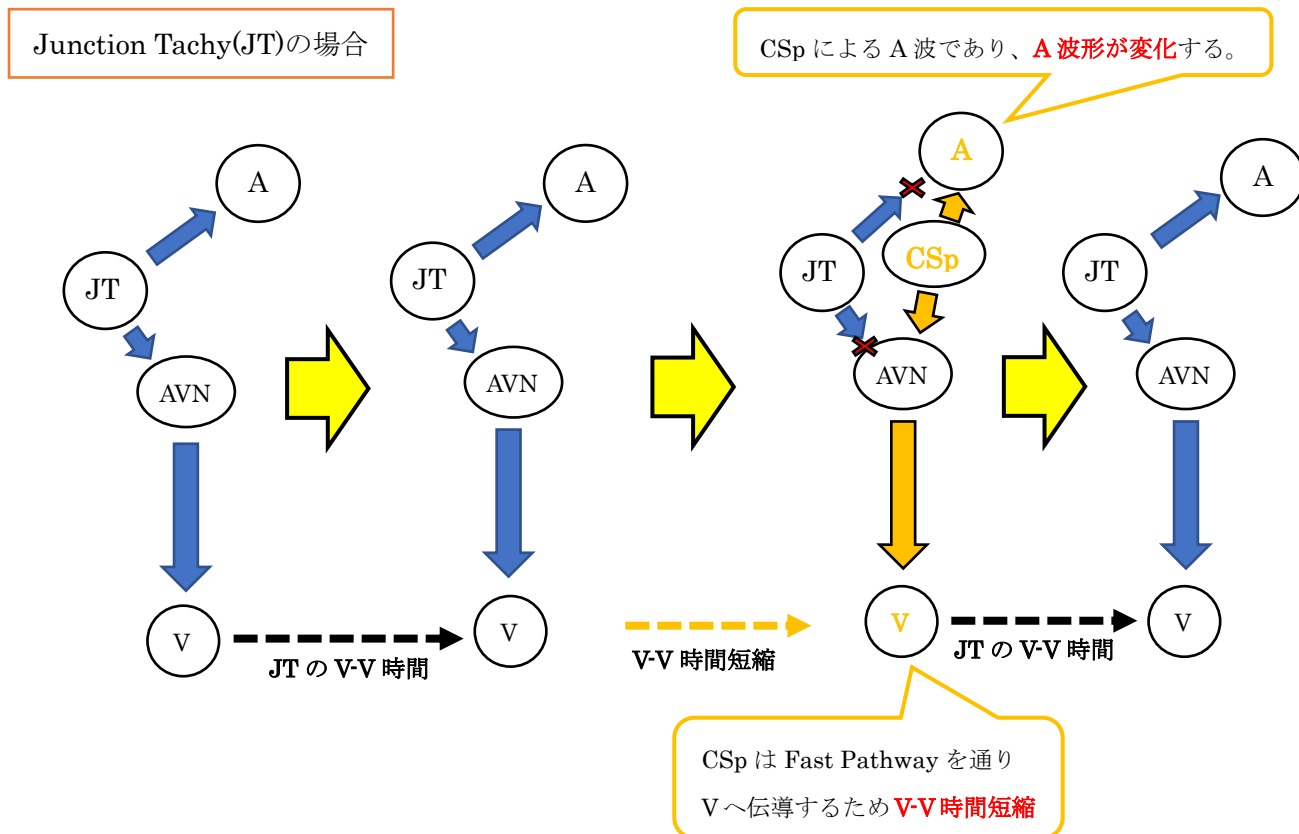
CS や HRA から pacing するのが一般的。  
 AP 後に生じる **A 波**が頻拍時のものと形状が異なる (A 波が引っ張られる) ことが AP capture の証明である。  
 重要なのは、**V-A interval** が変化すれば AT。変化しなければ **AVNRT** であると言うことである。

## 【Junction Scan による Junction Tachy と AVNRT の鑑別】

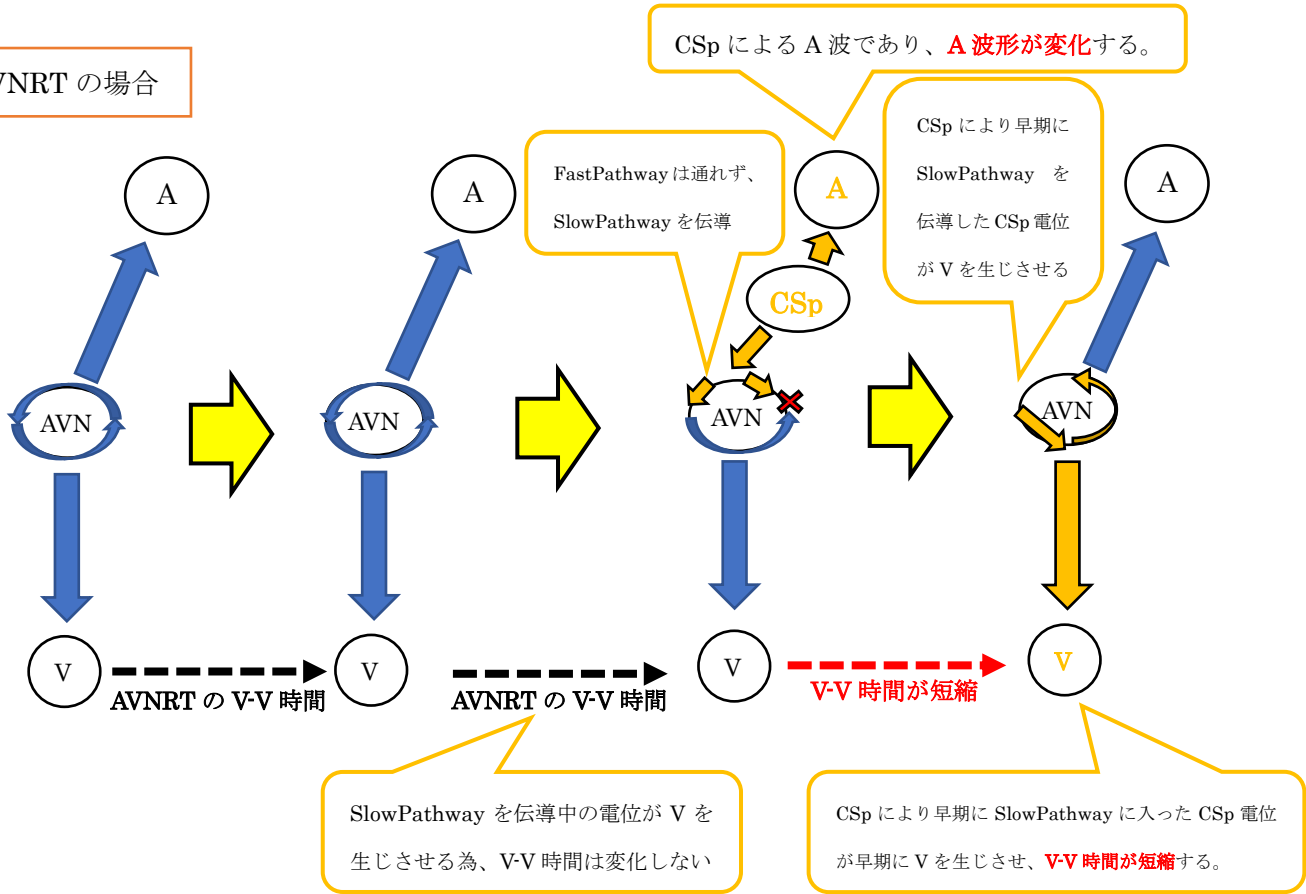
PSVT において HRA・His・CS・RV での電位時相が全て同じとき、AVNRT を疑う。

しかしながら、Junction Tachy による V tachy である可能性も捨てきれない。

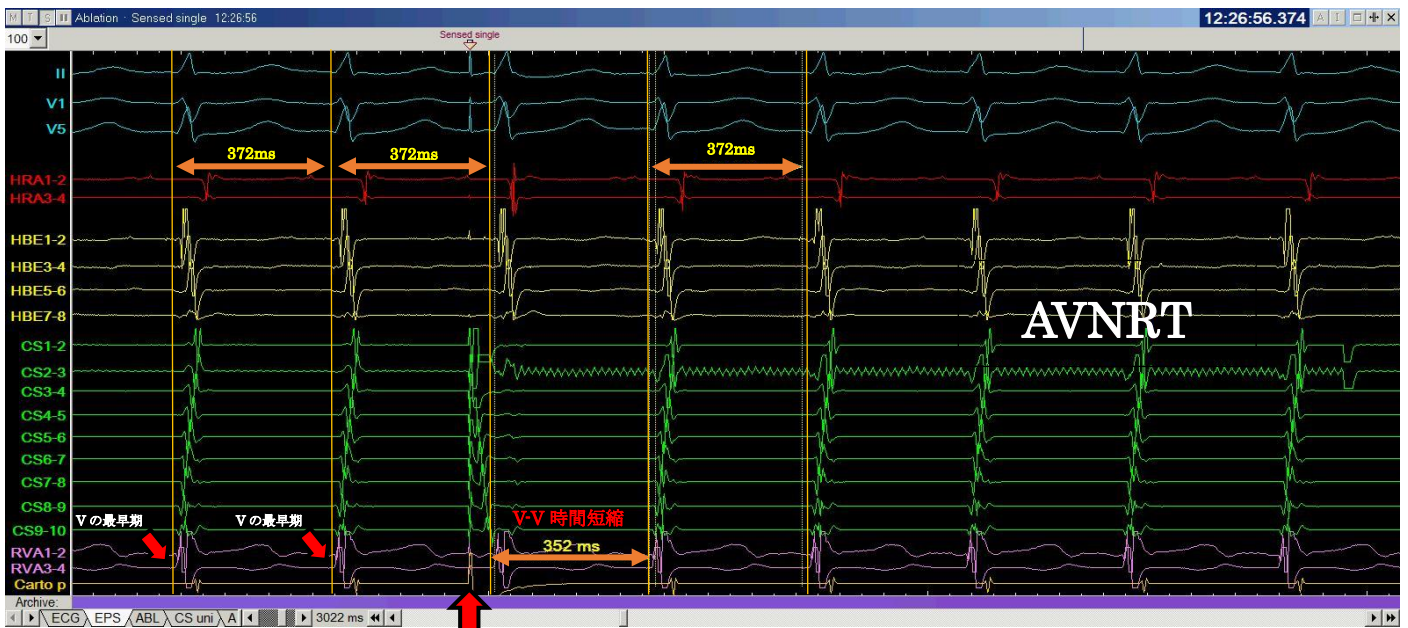
そこで、



AVNRT の場合

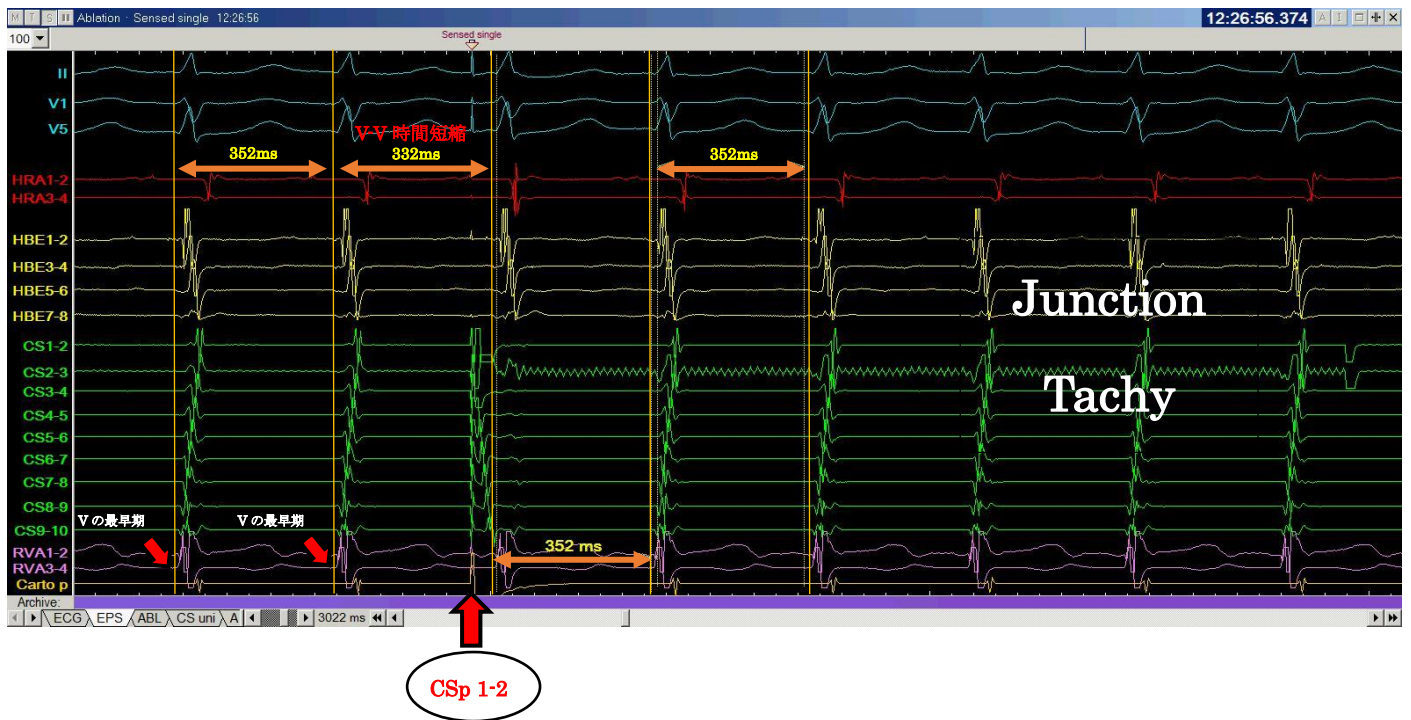


<CS1-2 による Junction Scan①>



CSp 1-2

## <CS1-2 による Junction Scan②>



### <Junction Scan の Point>

CS1-2 から pacing するのが一般的。

CSp 後に生じる A 波が頻拍時のものと形状が異なる(A 波が引っ張られる)ことが capture の証明である。

重要なのは、Junction Scan にて V-V interval が変化するのが Pacing を挟んだ V-V なら Junction Tachy。Pacing 後の V-V なら AVNRT であるということである。